

# 【週刊タバコの正体】

Vol.50 第1話～第4話

2021年09月

和歌山工業高校 奥田恭久

## ■Vol. 50

### (No. 675) 第1話 タバコの値上がり

ータバコ税収のキープ、財政もニコチン依存症になっている...

夏休みが終わり2学期が始まりましたが、新型コロナウイルスの感染者が急激に増えているので、気を引き締めて学校生活に臨み日常生活でも細心の注意を心がけてください。

さて、10月からタバコが値上がりします。というのもタバコの販売数量は下の折れ線グラフにあるように24年間で約1/3に減っているのに、棒グラフが示すタバコ税収は減っていません。つまり、タバコ税がそれだけ高くなっているわけで、一番下の図のようなスケジュールが上がってきました。そして喫煙者は今後も減り続けるでしょうから、タバコ税もまだ上り続けるでしょう。

自分や周りの人に健康被害を与えるタバコに、そんなにお金を出して吸う必要はありませんよね。

### (No. 676) 第2話 禁煙治療

ー「タバコをやめたい」なら「ニコチン依存症を治療しましょう」...

タバコの事をよく知らずに吸い始めてニコチン依存症になってしまった人は大勢います。そんな人たちの中には「できる事ならやめたいけど、やめられない」と思っている人が少なくありません。気持ちのなかでは「やめたい」のにやめられないのは脳が生理的にニコチンを要求し続けるからで、これがニコチン依存症なのです。ニコチン依存症になってしまうとグラフのように血液中のニコチンが少なくなると、やめたい気持ちに反して「やめられない」わけです。

### (No. 677) 第3話 最善の選択

ー「タバコ会社もタバコは吸うな」と言っていること...

最近、あるタバコ会社が新聞にこんな全面広告をだしていました。

何を広告しているのか、一目ではわかりにくいのですが、火をつけて煙が出る紙巻たばこと、燃やさずに煙のない加熱式たばこを比較した内容です。燃やすと6000種類以上の化学物質が発生し有害成分が多くなる。「だったら、燃やさなければ、いいんじゃないの・・・そんなタバコがありますよ。それが有害成分の少ない加熱式たばこです。」と広告しているように見えますね。

### (No. 678) 第4話 在宅勤務

ーコロナ禍の在宅勤務増で家庭での受動喫煙が増えた...

新型コロナの感染予防のため、出勤せず自宅で仕事をする在宅勤務の人が増えています。一日中家庭で仕事をする喫煙者が増えると、どのような影響がでるのか、国立がん研究センターが調査を行ったそうです。タバコを吸う人と吸わない人、それぞれ1000人計2000人にアンケートしたところ、左図のような結果となったようです。

通常なら職場の喫煙場所などで喫煙していた人たちは在宅勤務により自宅で吸うことになります。すると家族や同居人が、その煙を吸われる機会が増えるので、「受動喫煙が増えた」と答えた人が33.7%もいた...

毎週火曜日発行



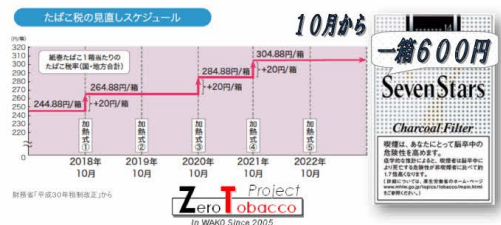
URL: [https://www.jascs.jp/truth\\_of\\_tabacco/truth\\_of\\_tabacco\\_index.html](https://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_index.html)

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。  
 ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。  
 ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。



## volume 50 第1話 週刊 タバコの正体

夏休みが終わり2学期が始まりましたが、新型コロナウイルスの感染者が増えているので、気を引き締めて学校生活に臨み日常生活でも細心の注意を心がけてください。  
 さて、10月からタバコが値上がりします。というのもタバコの販売数量は下の折れ線グラフにあるように24年間で約1/3に減っているのに、棒グラフが示すタバコ税収は減っていません。つまり、タバコ税がそれだけ高くなっているわけで、一番下の図のようなスケジュールが上がってきました。そして喫煙者は今後も減り続けるでしょうから、タバコ税もまだ上り続けるでしょう。  
 自分や周りの人に健康被害を与えるタバコに、そんなにお金を出して吸う必要はありませんよね。  
 産業デザイン科 奥田 恭久



## volume 50 第4話 週刊 タバコの正体

新型コロナの感染予防のため、出勤せず自宅で仕事をする在宅勤務の人が増えています。一日中家庭で仕事をする喫煙者が増えると、どのような影響がでるのか、国立がん研究センターが調査を行ったそうです。タバコを吸う人と吸わない人、それぞれ1000人計2000人にアンケートしたところ、左図のような結果となったようです。

通常なら職場の喫煙場所などで喫煙していた人たちは在宅勤務により自宅で吸うこととなります。すると家族や同居人が、その煙を吸われる機会が増えるので、「受動喫煙が増えた」と答えた人が33.7%もいたそうです。さらに喫煙者の18%の人が「コロナ禍で吸う量が増えた」と答えていますので、家庭での受動喫煙の状況は悪化していると思われます。

喫煙者にしてみれば、換気扇の下やベランダで吸えば、もしくは空気清浄機を設置すれば家族に迷惑がつかないと思ってしまいがちですが、それぐらいでは白い煙は見えなくなっても有害成分を吸うことはできません。  
 それに、実は喫煙者が吸い込む煙(主流煙)より、周りの人が吸い込む煙(副流煙・呼出煙)の方が有害成分の濃度が高く、健康に重大な影響を及ぼします。だから受動喫煙を受け続ける左図にあるような病気になるリスクが高くなること報告されていて、そのために亡くなる方が年間約1万5000人とも言われています。



産業デザイン科 奥田 恭久  
 Zero Project In WAKO Since 2005